

# 岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2022

と き 令和4年10月28日(金)・31日(月)  
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

## 金蔵山古墳

岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約158mを測り、古墳時代前期末から中期初頭ごろに築造されたと考えられます。古墳保護のため、平成23年度以降、測量調査、範囲確認調査を実施しており、史跡指定を目指しています。これまでの調査では、墳丘に造り出しや島状遺構の付属施設が存在することや、裾部から墳頂部にいたるまでの斜面やテラスの構造が明らかになっています。また、調査に伴って出土した埴輪も多種多様です。

令和3年度は後円部の西側と東側のくびれ部を発掘しました。後円部の西側では、埴輪列が残っていたため、古墳の西端を捉えることができました。東側のくびれ部においても、埴輪列を検出できたことにより、上側のテラスが後円部と前方部でつながらず、一方で下側のテラスは接続していることが分かりました。大型の前方後円墳で、このようにテラスの実態が判明した例は意外に少なく、今回の調査成果は墳丘を復元する上で貴重なものと言えるでしょう。

## 造山第2古墳

岡山市北区新庄下

造山第2古墳は古墳時代中期の古墳で、これまでの調査から周溝をもつ1辺30m以上の方墳とされています。過去の調査で周溝の外側に埴輪列が見つかったいましたが第2古墳に属するのか造山古墳に属するのか決着が付いていませんでした。また、古墳の南側から西側にかけての古墳の範囲もわかっていませんでした。令和3年度の調査では以上の課題を解決する目的で調査を行いました。

調査の結果、過去に古墳の東側で見つかった埴輪列は南側で直角に曲がり、第2古墳の周囲を回ることがわかりました。埴輪列は円筒・朝顔形・盾形埴輪で構成されています。盾形埴輪の中には頭部が付く盾持人埴輪も含まれます。

西側の調査区では古墳の墳端や周溝を確認できました。トレンチ9からも墳丘の葺石が確認できました。このことから、本古墳には造り出し状の遺構が伴うことがわかりました。

## 万富東大寺瓦窯跡

岡山市東区瀬戸町万富

吉井川右岸の低丘陵を中心に築かれた窯跡群で、鎌倉時代の東大寺再建に際し瓦を焼成した窯跡として学史的にも著名です。窯跡の保存整備事業として岡山市教育委員会では令和3年度から範囲確認調査を始めました。令和3年度は大寺山地区の南側を発掘しました。

調査の結果、3～10号窯と6・7号窯の間で、新規の窯1基、計9基を確認できました。4～9号窯については過去の磁気探査での推定位置とほぼ一致しました。窯は半地下式の平窯で幅約1.2～1.5mで、基本的に2条の分焰牀が伴います。隣の窯とは1～2mほどの間隔で築かれていました。特に10号窯の残存状況は良好で、窯跡の復元において重要な資料となるでしょう。

トレンチ全体での出土遺物は平

瓦が大半を占め、丸瓦や軒瓦は1割ほどです。その中には『東大寺』の刻印を持つ瓦なども見つかりました。そのほかにも土師器や土師質土器、瓦質土器、石硯の破片などが出土しました。

